



第65回日本臨床眼科学会

イブニングセミナー17

低侵襲緑内障手術

～トラベクトームの可能性～

日時 2011年10月8日(土) 18:00~19:00

会場 第9会場(東京国際フォーラム ガラス棟7階 G701)

座長



新家 眞 先生

公立学校共済組合関東中央病院 病院長 / 東京大学名誉教授

現在眼圧下降の確実性に関しては、多くの緑内障病型において濾過手術(Trabeculectomy)が最も優れている。但しTrabeculectomyの手術合併症及び術後管理の煩雑さもまたよく知られている事実である。この点を改善するために近年多くの非濾過型の緑内障手術術式が開発・報告されてきたが、古典的な線維柱帯切開術(Trabeculectomy ab externo)を明らかに凌駕し、それに代わる物は未だないのが現状である。それらの中で、トラベクトーム手術は特別の機器とViscoelastic materialの使用による一種の進化したTrabeculectomy ab internoであり、成績も当然それと大差ないと考えられるが、その手技が簡便であること、結膜に全く侵襲を加える必要のないこと、白内障手術との併用が容易な事等、古典的なTrabeculectomy ab externoに比べて多くの利点を持ち、欧米、特に米国で多く普及しつつある術式である。今回米国からその開発と普及に当初よりかかわってこられた演者に米国でのトラベクトーム手術の実際とその成績をお話しいただき、さらに日本での最近の経験もトラベクトーム手術研究会の会員にお話しいただく事とした。参加の方々のトラベクトーム手術に対する理解の一助となれば幸いである。

演者



演題 1

『トラベクトームの手技と適応』

溝口 尚則 先生

溝口眼科院長(佐世保市)



演題 2

『トラベクトーム手術の早期成績』

庄司 信行 先生

北里大学 医療衛生学部 視覚機能療法学専攻 教授



演題 3

『Outcome of Trabectome Surgery Alone or Combined with Phacoemulsification』

George Baerveldt 先生

Professor of Ophthalmology at the Gavin Herbert Eye Institute, University of California, Irvine

TRABECTOME®



taming surgical complications.

共催 第65回日本臨床眼科学会
Kowa 興和株式会社